

2024/07/07

説教：神の恵みの栄光のために-地上における神の家、教会

OICの皆さん、お早うございます。そして父の家によろこば。

今日も、使徒パウロによって書かれたエペソ書が続けます。先週私たちは、パウロがエペソの信徒たちに、つまりすべてのクリスチャンたちに、神の視点に立ち、あたかも自分たちがすでに天の場所にいるかのように生きるよう、指示したことを見ました！ 今、パウロは、霊的に天の場所に引き上げられるための神からのこの恵み、分不相応な好意は、彼らが最初にイエスを信じるようになったのと同じ恵みであると宣言しています。したがって、すべてのクリスチャンの過去、現在、未来は、神の恵みの栄光によるものであり、神への栄光です。

それでは、エペソ人への手紙に書かれていることを読みましょう：

「7 それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜わる慈愛によって明らかにお示しになるためでした。8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」ここでパウロは、来るべき時代におけるイエス信者の未来から、イエスを信じる私たちの入門へと移行する。エペソ 2章 8-9節を読みましょう。：「8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。9 行ないによるものではありません。だれも誇るものがないためです。」

人間が作ったものであれ、悪魔が作ったものであれ、すべての偽宗教は、信奉者や信者が儀式や神社への巡礼の旅や痛みを伴う生け贄を捧げることができることを強調しているように見える。キリスト教は完全に神の賜物です。私たちがキリストを受け入れたように、これを受け入れます。イエスに長く従えば従うほど、イエスがいかに私たちを気にかけて見守っておられるか、そして神の力をもって私たちの先に行くかを実感します。イエスは私たちを保ち、立ち上がらせ、神のために実を結ばせてくださいます。

(エペソ 2.8)を読みます：「信仰によって救われたのです」 - この信仰とは、イエスが私たちの身代わりとして十字架上で犠牲の死を遂げ、私たちが受けるべき神の怒りをご自身の身に受けてくださったことを信じることです。また、聖書は(ヨハネ 6.29)で次のように語っています：「29 イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」 私たちは、全知全能の御力と、その慈悲の働きに畏敬の念を抱いています。罪人は、主が遣わされた方 {イエス} を信じることはできません。そして、神の御業の結果、何年もかかるかもしれないし、マイクロ秒かもしれない、超自然的な奇跡が起きます： 神の敵がイエスを信じ告白することで、神の子ども

もとなるのです。このことは、キリスト教におけるアイザック・ワッツの有名な賛美歌『Alas! And Did My Savior Bleed? (『THE HYMNAL for Worship & Celebration』の208番の歌)。この「King James 訳聖書」とは違う言葉かもしれないが、生まれ変わったばかりのクリスチャンは、この賛美歌の最初の節を心の奥底で感じています： 嗚呼！わが救い主は血を流し、わが君主は死んだのか。私のような罪人のために、あの聖なる頭を捧げるだろうか？そして、キリストにある赤ん坊は、「そうです、イエスはなされた、神をたたえよ」と言います！

私はこの、あまりにも小さいと思われる釈義を、宇宙で最も素晴らしく無限のもの、罪人の救いに捧げました。次の(エペソ 2.8)にある：「信仰によって救われたのです」は、勿論真実ですが、全ての奇跡の中の奇跡です！

十字架上で完成したキリストの御業を信じることによって、キリストのうちに生まれ変わります。

目と心を開き、信仰の賜物を与えるのは、イエスの働きであり、聖霊の働きです。(エペソ 2.9)のように、罪人が自分で救おうと努力することではありません：「9 行ないによるものではありません。だれも誇ることもないためです。」パウロは、私たち人間は、自分がうまくやったことから自分の価値を高め、それを自慢する傾向があることを知っていました。クリスチャンの生活には、今でも自分のことを誇らしく思えるところがあります。しかし、私たちすべてが受けるにふさわしい神の怒りから救われることに関しては、行いによるものではありません。

教訓 その1

私たちを救ったのは神の御業であって、私たち自身の業ではありません！聖霊は、私たちが故意に罪の中に生きていることを発見し、悔い改めさせ、十字架上のキリストの受難の意味を信じさせました。その時、イエスは私たちが受けるべき神の裁きと怒りをすべて受けられました。

(エペソ 2.10)：「10 私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。」

私たちは、主イエスが地上の養父ヨセフとともに大工の少年として働かれた姿を想像するかもしれません。聖書が(ヨハネ 1.2-4)で語っているように、私たちは主の手仕事に大きな信頼を寄せるべきです：「2 この方は、初めに神とともにおられた。3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。4 この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。」パウロは新約聖書の手紙の中で、ユダヤ人も異邦人もすべてのクリスチャンは**選ばれた者**であると教えています。(ローマ 8. 28-30/DARBY)：「28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。29 なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかた

ちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。30 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。」

(詩篇 71. 3-6/NASB1995) に見られるように、神と密接な関係にある者のためのこのような神学や知識は、旧約聖書でもまったく知られていなかったわけではないのです：「3 私の住まいの岩となり、強いとりでとなって、**私を救ってください**。あなたこそ私の巖、私のとりです。4 わが神よ。私を悪者の手から助け出してください。不正をする者や残酷な者の手からも。5 神なる主よ。あなたは、私の若いころからの私の望み、私の信賴的のです。6 私は生まれたときから、あなたにいだかれています。**あなたは私を母の胎から取り上げた方**。私はいつもあなたを賛美しています。」

「私を救ってください。」というフレーズは、新約聖書が教えているよりも、肉体的な敵からの一時的な解放を指していた可能性が高いです。しかし、「**あなたは私を母の胎から取り上げた方**」という絶叫は、間違いなく『選ばれた者』の神学を指し示しています！こうして「**選ばれた者**」は神の手による作品となり、(エペソ 2. 10) にあるように、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって創造されました。神は天と地、そしてそこにあるすべてのもの、すべての人を創造した神です。受動的ではなく、能動的です。私たちは、聖書の一節『主は平和なり』から、神が受動的であると勘違いしやすいです。これは、ギデオンが父のバアルの祭壇を壊して建てた主の祭壇に刻まれた言葉です。(士師記 6. 24)：「24 そこで、ギデオンはそこに主のために祭壇を築いて、これをアドナイ・シャロムと名づけた。これは今日まで、アビエゼル人のオフラに残っている。」聖書は、ギデオンが主に従い、バアル礼拝とミディアン人との**戦い**に赴くとき、神がギデオンに内なる平安を与えたと伝えています。

そう、主は平和である。しかし実際、パウロはこの手紙の中で、クリスチャンは良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたと述べています。イエスに従って善い行いに励むクリスチャンなら誰でも、イエスとその教会の敵であるサタンが、この善い行いを妨げ、やめさせようとするのを知っています。サタンの主な攻撃手段は、まずクリスチャンの**喜び**を奪い、次に**平安**を奪うことです。エペソ書は、戦いの書であると同時に、励ましの書でもあります。パウロは、エペソ人への手紙3章で、クリスチャンの生活におけるこのような側面を明らかにし、エペソ人への手紙6章では、よく知られている「神の武具」の教えを紹介しています。主イエスは私たちに内なる平安を与え、しばしば葛藤の合間に主との関係を強めてくださいます。

(ローマ 8・37) に約束されているように、聖霊はしばしば私たちに御言葉を思い起こさせます：「37 しかし、私たちは、私たちが愛して下さった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」神は、悪魔とその使者たちとの最も激しい戦いの中で、私たちがイエスのために兵士となる時、大きな励ましを与えてくださいます。私たちが勇気を持ち続けるための一つの励ましは、ギデオンのように突然平安を経験するときです。(エペソ 4. 7)：「7 しかし、私たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。」

教訓 その2

私たちクリスチャンは、神と神の民に対する愛を、言葉だけでなく行動で示すことを選びます。また、私たちがキリスト・イエスにおいて創造された、まだ知られていないかもしれない良い行いに導いてくださるよう、神にお願いすることをお勧めします。

「キリストによって和解したユダヤ人と異邦人」とは、NIVUK 聖書の以下の箇所の見出しです。(エペソ 2.11-13)を読みましょう：「11 ですから、思い出してください。あなたがたは、以前は肉において異邦人でした。すなわち、肉において人の手による、いわゆる割礼を持つ人々からは、無割礼の人々と呼ばれる者であって、12 そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあって望みもなく、神もない人たちでした。13 しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされたのです。」

パウロはローマ教会の異邦人たちに、野生のオリーブの枝として、自然のオリーブの枝である父アブラハムの信仰の家族に接ぎ木されたことを感謝するよう教えていました。

(ローマ 11.17-18)で書きました：「17 もしも、枝の中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じってつがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をとるに受けているのだとしたら、18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。」パウロはこれらの異邦人たちに感謝し、不信仰が父アブラハムの血筋を受け継ぐユダヤ人の枝を断ち切ったことを思い起こすように勧めています。この異邦人たちも信仰を守らなければ、断ち切られてしまうのです。 さて、ここ (エペソ 2.13)、キリストの血が異邦人と霊的イスラエルの宗教的市民権との間の距離をなくしてくださった」とに宣言しています。

(エペソ 2.14-15) 読みます：「14 キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、15 ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、」主イエスこそ、私たちの平和です。「主は平和である」とは、先に述べたように、家族や隣人の偶像礼拝を攻撃し、優れたミディアン軍との戦いへの召命を受け入れたギデオンの心に神が触れたことです。新約聖書 (ピリピ 4.7) に書かれているように、これは明らかに平和でした：「7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」聖書を学ぶ皆さん、キリストが肉体をもって地上に来られる前、聖霊によってイスラエルの少数精鋭の指導者たちに働きかけられていたことを思い出して欲しいです。臆病だが従順なギデオンがそうでした！

今、パウロは、イエスが私たちの平和、つまりユダヤ人と異邦人が交わりを持つための平和であると宣言しています。これは、唯一の救い主によって、ユダヤ人と異邦人の間の何千年もの敵意が取り除かれたのです！ これは1世紀当時、世界を揺るがす大きなニュースであったことを認識しなければなりません。それは教会だけでなく、日常生活にも即座に現実的な影響を及ぼしました。

(エペソ 2.15-16)は言います：「15 ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、**16** また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。」

そしてパウロは、イエスの血の犠牲がすべてを贖ったと繰り返します：「**15** ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。」 それゆえ、ユダヤ人と異邦人を隔てていた律法は、イエスとともに十字架に釘付けにされ、その障壁、敵意という隔ての壁を破壊したと、私たちは本当に言うことができます。 **(コロサイ 2.13-14)：「13** あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、

14 いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書が無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。」

(エペソ 2.17-18)：「17 それからキリストは来られて、遠くにいたあなたがたに平和を宣べ、近くにいた人たちにも平和を宣べられました。**18** 私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができるのです。」

さて、パウロは、ユダヤ人も異邦人も、彼らの魂を救い、神のもとに導かれるために、この同じイエスを必要としていたという事実に戻ります。私の好きな種まきの聖句は、神のもとに導かれることを強調しています。 **(1ペテロ 3.18)：「18** キリストも一度罪のために死なれました。正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。」

文化、宗教的慣習、歴史において、ユダヤ人は異邦人よりも近いが、犠牲の小羊であるイエスへの信仰の賜物なしには何の意味もありません。今、唯一の聖霊が、ユダヤ人と異邦人のクリスチャンに、イエスの父であり、今や彼らの父である父へのアクセスを与えています。

(エペソ 2.19-20)：「19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。**20** あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。」

19節にあるパウロによる「選ばれた者」：「もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。」 「異邦人クリスチャンの皆さん、神の家族へようこそ！」。私の日曜日の朝の挨拶、"Welcome to Father's House." は、神の家族の聖徒たち、そして神の家族に入ることを切実に必要としている罪人たちに、同じようなことを言うことを意図しています。

パウロは今、キリストにおけるこの新しい一致を示すために、おそらくソロモン王が建てた神殿を暗示する建物の構造を取り上げたいです。(エペソ 2.20)で読むように：「20あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。」

エルサレム神殿のような1世紀の石造建築の石材は、**礎石**によって支えられていました。この独創的な石は、私たちが考えるような建物の角にあるただの石ではないのです。アーチ型にカットされた巨大な石で、その上や周りの石を支えています。

使徒ペテロもまた、イエスをこの**礎石**と呼んでいます。(1ペテロ 2.6-7)：「6なぜなら、聖書にこうあるからです。「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は、決して失望させられることがない。」7したがって、より頼んでいるあなたがたには尊いものですが、より頼んでいない人々にとっては、「家を建てる者たちが捨てた石、それが礎の石となった。」のであって、」

聖書に「見よ。わたしはシオンに一つの石を礎として据える。これは、試みを経た石、堅く据えられた礎の、尊いかしら石。これを信じる者は、あわてることがない」。{ペテロはイザヤ書 28.16を引用している。}しかし、信じない人々には、『建てる者たちが拒んだ石が、礎となった』と言う。ペテロは、使徒と預言者たちの土台について書いたとき、パウロが言及していたと思われる旧約聖書の預言者イザヤを実際に引用しました。パウロはまた、イエス・キリストの福音を宣べ伝える者たちという言葉の土台として、ペテロや他の仲間の使徒たちのことも考えていたのでしょう。1世紀のユダヤ人クリスチャンたちは、礎石であるイエスを拒否し、命の創造主であるイエスを十字架につけるようピラトに迫ったユダヤ教指導者たちのことをよく知っていました。

(エペソ 2.21-22)で、パウロは、イザヤ書によって預言された礎石であるキリストのこの美しい類似性を続けています。：「21すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。22また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。」

パウロがイエスとの親密な関係によって神について知っていたことは、その手紙の中で何度も何度も素晴らしい言葉の絵によって示されています。過去2回のメッセージで、私はクリスチャンが**キリストの内**にいるという真理について、力強くもシンプルな概念を強調してきました。すべてのクリスチャンにとって、2つの優れた、あるいは最も強力な結果があります：

第一の“キリストにあつて”とは、地上での永遠の命であり、また**神の恩寵の栄光**のために肉体的に天に召されることです。**第二の“キリストのうちに”**とは、私たちがすでにキリストとともに**天の領域**に引き上げられたということです！今、パウロは、私たちの目を天の位置から地上に戻し、イエスに従う者たちの家族を**主の聖なる神殿、キリストの教会**へと引き上げる神の計画を見るよう、私たちに指し示しています。キリスト教会は建物の中で開かれるかもしれないが、教会や神殿は人々です！**礎石**であるキリストの上に安置された石は、互いに**組み合わ**されて立ち上がります。このことは、私たちクリス

チャンが、日々、より親密に生きることを学ぶという神の意図をはっきりと示しています。また、神は新しい石を加えて、建物を立ち上がらせると宣言しています。

教訓 その3

教会の成長は、神にとっては質問でも選択肢でもありません。石を増やさない限り、建物は隆起しません！

(エペソ 2.22)は、次にいます：「23 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。」 私たちクリスチャンが共に建てられているのは、神が私たちの内に、私たちのために忍耐強く愛を持って働いてくださっているからです。神は、御霊によって、私たちと共に、また個人としても、実際に私たちの内に生きておられるのです。各クリスチャンの中にある平和と落ち着きと赦しと御霊の実という素晴らしい感覚は、日曜日でもどんな日でも、ただ教会に行って他のクリスチャンと一緒にいるだけで最も強く感じられることが多い。イエスは、(マタイ 18.20)で言います：「20 ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」

親愛なる OIC の聖徒の皆様！私たちは神に感謝することがたくさんあります：

今、私たちはキリストの中において、霊的には復活し栄光を受けた肉体の中で、天国でイエスと共にいます。OIC は父の家であり、神は聖霊によって私たちクリスチャンと共にここに住んでおられるからです。私たちの内に、そしてこの OIC の教会の内に住んでおられる神の奇跡を、私たちの口と生活で神に感謝しましょう！

唇で神を賛美する：私たちを救ったのは神の御業であって、私たち自身の御業ではありません！聖霊が私たちを探し求め、イエスがその贖いの血で私たちを買ってくださったことを確信させてくださったのです。

人生をかけて神を賛美しよう：キリスト・イエスにあって造られた私たちが行うべき、まだ知られていないかもしれない良い行いに導いてくださるよう神に求める祈りを含め、言葉だけでなく行動によっても、神と神の民に対する私たちの愛を示めしましょう。私たちは神のうちにあり、神の御霊によって神が住まわれる住まいとなるために共に建てられつつあることを覚えましょう。

口びると生活で神を賛美する：

教会の成長は、神にとっては質問でも選択肢でもありません。石を増やさない限り、建物は建ちません！私たちは大阪の罪人たちに神の愛を示し、神が OIC の聖なる神殿であるキリストの体に、より多くの石をはめ込んでくださることを信じて、積極的に祈り、行動していきましょう。

祈りましょう！

参考文献

AMP - *Amplified Bible*, Copyright © 2015 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631. All rights reserved.

KJ21- 21st Century King James Version (KJ21) Copyright © 1994 by Deuel Enterprises, Inc.

NIVUK - Holy Bible, New International Version® Anglicized, NIV® Copyright © 1979, 1984, 2011 by Biblica, Inc., Used by permission. All rights reserved worldwide.

THE HYMNAL for Worship & Celebration. - WORD MUSIC, Waco, Texas, USA